

第5学年 学級活動指導案

情報活用能力研究部

- 1 題材 みんなで学ぼう！情報モラル！
- 2 指導計画
 - (1) ダンス（著作権と責任）・・・・・・・・・・1時間
 - (2) 楽しいゲーム（ネット依存と友情）・・・・・・・・1時間
 - (3) ペットをもらって！（チェーンメールと友情）・・1時間（本時）

3 本時の指導

(1) 目標

友人からの依頼に応えることと社会的に迷惑になるような行動を自制することの間に起こる葛藤について話し合う中で、迷惑メール（チェーンメール）に対する知識を身に付け、不適切な情報を認識できるようにする。

(2) 準備

教師：資料「ペットをもらって!」、考えキャッチシート、挿絵

時間配分	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
3分	1 メールなどを使用した経験を発表する。	○ 数名に指名し、発表させる。 ○ メールを使用したことがあるか、問いかける。
7分	2 資料から、主人公の葛藤状況を確認する。	○ 内容がつかみやすいように、少しずつ解説を加えながら話を読み聞かせる。 ○ 状況に応じて聞き取りメモをとらせ、登場人物の関係を整理しやすくする。
5分	3 「ぼく」は、メールを送るべきか、送らないべきか、を考える。	○ 考えキャッチシートに、自分が選んだ理由が分かるように記入させる。 ○ メールを送るべき派とやめるべき派に分けて、座席を移動させ、自分の考えを画用紙に書き、黒板に貼らせる。 手だて1
発問： 「ぼく」はメールを送るべきか、送らないべきか、理由を明らかにして発表しましょう。		
20分	4 話し合いをする。 ・ メールを送るべき派 「送らないと友達に怒られる。」 「ペットがかawaiiそうである。」 「動物の命が大切だ。」 ・ メールを送らないべき派 「父に送るなど言われている。」 「内容がうそかもしれない。」 「興味のない人にとっては迷惑。」	○ 論点を明確にして、話し合いをさせる。 ○ 自分の体験をふまえて考えを発表すると、より説得力が増すことを伝える。 ○ 友情を重視する意見、公德心を重視する意見それぞれに分類し、メモをとらせながら聞くようにさせる。 手立て2
10分	5 授業を振り返り、まとめを書く。 ・ チェーンメールの実際の例について知らせる。	○ 考えを見直して、まとめることができるように呼び掛ける。 ○ 話し合いを通して気付いたことを書かせる。
 評価事項 信頼・友情と公德心の価値の間で起こる葛藤を通して、社会の迷惑になる行為を自制することの重要性と友情の在り方について包括的に考えることができている。【考えキャッチシート・発言】 □・・・話し合い活動を通して気付いたことが記述できない児童には、友達の意見で良いと思ったことを書かせる。 ☆・・・考えを深めることができている児童には、友達の意見の良いところを探させる。 		

